一年生における書く力をのばすための発展的指導の一考察

足利市立毛野小学校　丸田芳江

研究項目

1. 五十音　習得上（読み）の経過
2. 初歩段階における、書く力を、のばすための指導
   (イ) 絵日記上に、あらわれた誤字
   (ロ) テスト上に、あらわれた誤字の実態と、その指導
   (ハ) 作文上に、あらわれた誤字の実態と、その指導
3. むすびにかえて

この受け持つ学級は、一年生の中でも一番うまれの　おそい児童たちである。入学当初は、まるで身体的にも、他の学級の児童と比較し、貧弱で、行動そのものは、おどおどしているように感じた。席につけば、どの児童も机の下に、もぐり込んでしまいそうな、あどけない、いじらしくも感ずる状態である。

五十音習得上（読み）の経過

入学して間もなく「ひらがな五十音の調査」を全児童に行う。

第1回目を（4月20日）に行なう。全部読めたものが在籍36人中　8人、

他の児童の習得状態は一覧のとおりである。

回数	第1	2	3	4	回数	1	2	3	4	回数	1	2	3	4	回数	1	2	3	4
	読	め	ぬ	数		読	め	ぬ	数		読	め	ぬ	数		読	め	ぬ	数
あ	14	2	2	2	す	17	1	1	1	の	13	4	2	2	ゆ	⑲	⑨	⑧	6
い	14	1	1	1	せ	17	1	0	0	は	19	6	5	3	よ	16	5	2	3
う	12	1	1	1	そ	18	4	3	1	ひ	16	3	1	1	ら	18	2	1	1
え	18	4	2	1	た	11	3	2	1	ふ	18	3	2	1	り	15	4	3	3
お	16	2	2	2	ち	17	3	3	1	へ	17	4	3	1	る	13	⑨	5	4
か	8	2	1	1	つ	15	4	1	1	ほ	⑳	⑧	⑤	⑤	れ	21	⑧	⑧	5
き	8	3	3	2	て	17	3	1	1	ま	13	2	2	2	ろ	18	4	4	4
く	10	2	2	2	と	11	2	2	1	み	14	4	1	1	わ	17	⑦	4	3
け	17	6	4	2	な	16	5	3	2	む	㉑	⑨	⑦	4	を	⑳	4	4	3
こ	11	2	1	1	に	14	4	3	1	め	18	4	4	2	ん	10	2	2	1
さ	15	3	2	2	ぬ	㉓	⑱	⑥	④	も	19	1	2	4					
し	9	0	0	0	ね	19	5	4	3	や	17	4	4	6					

○印は読むのに抵抗をかんじた字。

児童を一人一人みると、それぞれの習得の差がたいへんある。皆学校生活に夢中であるところへ、教育は日に日に進んでいる。このあたりにも、もう種々の問題がうまれつゝあると思う。

五十音調査に対する種々な記録

○第1回調査（4月20日）全部読めた者　8人

○第2回調査（7月3日）全部読めるようになつた者　10人

○第3回調査（7月15日）全部読めるようになつた者　6人

ここで第一学期の学習がおわる。在籍36人中全部五十音が習得出来なかつた者が12人である。

○第4回調査（9月26日）全部読めるようになつた者　4人

このうち、H児童（大沼田町で家は農業である。そのかたわら両親で織物業を営む。生活状態は中の上である。兄弟は二人であり末つ子である。教育に対しては関心が強く、素ぼくながらも熱心である。男子は、第一学期21字習得がやつとであつたが、夏休み中家庭学習がよくなされ、楽に今度の調査が受けられる状態になつていた。勿論私からも、夏休みの勉強については家庭に一応はお願いはしたものの、実際のところここまでは望みをかけていなかつた。ここで教育は学校と家庭が一つとなつて児童にあたらねばならぬものと、あらためて考える。第二学期になつてからのH児童の学校生活には、自信にみちた態度で楽しそうに過している事がはつきりとわかる。

○第5回調査（10月9日）全部読めるようになつた者　3人

現在まだ習得困難者　5人

A児童（男）未習得字　(ほ)　1字

K児童（男）未習得字　(ゆ)　1字

K児童（女）未習得字　22字

O児童（女）未習得字　42字

H児童（女）未習得字　3字

第1回目の調査で、読むのに抵抗をかんじた字が、一覧のうち○のついた「ぬほむを」である事がわかつた。

第2回目の調査で、たいへん習得された児童がふえているのに気づく。全体的に抵抗をかんじた字が、第1回目の調査に加え「ゆるれわ」も上げられる。

○第6回調査（11月2日）全部読めるようになつた者　3人

これで在籍36人中、まだ未習得者が2人となる。

これからも努力を重ね、二年生になるまでには、のこる二人の児童たちにも全部習得されうるようにしたい。

2. 初歩段階における書く力をのばすための指導

書く作業が行なわれてくるようになると、普通使用されている児童たちの言語の不明瞭および方言に影響された間違いが多くおきている事がわかる。

一例であるが

てれび……てねじ　　かくれんぼ……かくねんぼ　　かずおくん……かぞおくん

じおたいそう……だじおたいそう　　した……ひた　　おわりました……おありました

たか……なにつか　　わたし……あたし　　くるま……はま

ばすがとまる……ばすがやむ　　たべてたら……たべてたらばー

たる……いぼる

学習中、促音、濁音、半濁音が不正確に読まれ関心をもたずに書かれている。これらが多くの間いをひき起しているようである。

れらに関連する問題が「てにをは」である。以上の問題点をまとめ、児童たちはどんなところでつまずき、どんな点で抵抗をかんじているのか、いろいろ調査をしながら、その問題の解決を見出せる手段を考え、実際にその結果をみながら、すこしでも児童たちの肩の重荷をおろしつゝ実力がつく事を願い、この研究を進めてみよう。

絵日記上にあらわれた誤字

の一覧は絵日記の文より、児童たちのおおく使用される言語中、間違いをまとめてみたものである。

7月13日）絵日記					
間違いの内容	問題点	数	間違いの内容	問題点	数
全文を正しく書く		7	でんしゃごらこ	促音	1
文が途中		1	てねじ	てれびのこと	1
全文を書かず		4	みまひた	しのあやまり	1
をがぬける		5	かくねんば	れのあやまり	1
ををおとかく		11	ぎらたんばらこ	促音	1
いきました	いをぬかす	1	あさび	そのあやまり	1
ました	たをぬかす	1	ようちへん	えのあやまり	1
のらて	促音	1	かそおさん	ずのあやまり	1
みえちゃん	促音	2	ぼくわ	はのあやまり	1
んぼんじょおき	うのあやまり	1			

記

計された数のなかには、同じ児童のすう回のあやまりがある。

9月26日）絵日記	
全文正しく書く	3
文が途中	4
全文を書かず	5
文につづれぬ	2

間違いの内容	問題点	数	間違いの内容	問題点	数	間違いの内容	問題点	数
ををおと書く		5	わたしわ	はの誤り	1	をもしろい	おの誤り	1
ちはん	濁音	1	いらとう	促音	1	かけらこ	促音	1
はとび	わの誤り	1	はたし	わの誤り	1	ぼくわ	はの誤り	1

おををと書く		1	はしんて	促音	1	なにんか		1
はをわと書く		3	ところえ	への誤り	1	あたし	わの誤り	1
すずはりわ	逆である	1	じゅんばん	促音	1	まはり	わの誤り	1
をもしろかつた	おの誤り	1	まんて	促音	1	かこ	濁音	1
だじおたいそう	らの誤り	1	をありました	おわの誤り	1	さんじ	じゅう	1
ふへ	えの誤り	1	もんたけれど	促音	1	とるば	れの誤り	1
ひた	しの誤り	1	く	文字がさかさ	1	しくえん	ひゃの誤り	1

付　記

集計された数のなかには、同じ児童のすう回のあやまりがある。

次に、二、三の児童の文を書き上げて、内容およびあやまられている点を吟味してみようと思う。はじめてプリントされた、絵日記形式のものに文をつづつた。たどたどしくはあるが、どうにかしてまとめようとの熱意と努力がうかがわれ、本当に児童たちの成長ぶりをよろこぶと共に、何かほほえましいものをかんじた。

○みやさきのたいこをたたきました。

○ようちえんに、よばれていきました。てつぼうや、おすべりをしました。

○なわとびをしました。

○おとうさんと、えいがにいきました。

○じてんしやにのりました。

○みんなと、まりをついて、あそびました。

○ばすにのつて、ほりごめへいきました。それから、かんきりをしました。

次に9月26日に書いた絵日記をみると、わずか2ケ月間のうちに児童たちは、相手にはなしをしているように、かざりけなく、それも長い文にとまたまた伸びている。しかし反面、使用される語彙の間違いも多くなり、何くれとなく導きつゝもそのあやまりがなかなか取り除けない。ここにいくつかの文を書き出し今後の指導上の結びつきにしたい。

○ぼくは、つなひきや、なにんかみました。

○たまいれ

ぼくたちは、おかあさんと、てをつないで、あかいたまのまはりに、わおつくりました。せんせいの、ぴすとるのあいずで、みんな、かこのひたに、はしんていきました。

ぬける

○かけんこ

ぬける

あたしは、かけんこで、さんとうおとりました。それで、おとうさんが、さんとうを、とんたから、さんじゅうえんくれました。おかあさんが、いんとうお、とるば、しくえんくれるといいました。

ぬける　ぬける　ぬける　ぬける　ひゃくのこと

○うんどうかい

たのしくまつた、うんどうかいも、をありました。わたしわ、はじめてのうんどうかいで、とうても、うれしかつた。おかあさんもみていてよく、ゆうぎができたよとほめてくれました。よしこ

ぬける　ぬける　ぬける

けんじ
あつし
とみこ
ひでお
よしお
まり
やすお
やすお
あつし
ひでこ

2

う第一に、この間違いを児童に意識を持たせる事が大切であると思う。文をつづる事においては回も読みなおす事と、かならず作品をかえす時には、あやまれるところにしるしをつけ、正しくおさせるようにした。

スト上にあらわれた誤字の実態とその指導

の時、校内国語研究部において、読みにより文を正しくつづるテストが、毎月一回月末に行なわれように計画された。学年の相談により、やはり同じ悩みを持つ者同志で、初歩の扱いとして、新出漢字、注意させる語彙、促音、濁音、半濁音を書かせるように定め、やがては簡単な文がつづれところまで指導していくように決定した。なお、学級担任はお互いに交替しそのテストにあたつた。第1回目のテストは9月の下旬に行なわれた。その結果、児童たちのつまずかれたところを一覧にしてみた。

第1回　国語学年共通テスト問題

番号	問題	内容	番号	問題	内容
1	(と)う(ふ)つえん	新出文字	6	くる(っ)と	促音
2	おおきな(ぞ)う	新出文字	7	(ロ)のなか	新出漢字
3	ながいはな		8	(べ)ん(ぎ)ん	新出文字
4	(ば)ん	半濁音	9	おおさわぎ	注意させる語意
5	ぶらぶらさせて	注意させる語意	10	もぐ(っ)て	促音

学年共通テスト中多く間違つたところ、○印は問題となるところ。

問題番号	誤答	数	誤答	数	誤答	数	誤答	数
1	どうぶ(す)えん 解答なし	1 4	ど○ぶつえん	1	(ぞ)うぶつえん	1	文字が途中ぬける	3
2	(を)○きなぞう お(う)きなぞ○	1 5	おおきなぞ○ おおきなぞ(お)	4 3	お○きなぞう 途中まで書く	3 4	おおきなぞう(う) 解答なし	1 3
3	途中まで書く	3						
4	(ば)ん	1	ぱ(あ)ん	1	解答なし	1		
5	ぶら○○させて	1	させ(っ)て	1	解答なし	8	途中まで書く	2
6	くる○と 解答なし	15 1	くる(う)と	2	く(ろ)○と	1	(っ)るっと	1
7	ロ(ち)	9	(く)(ち)のなか	4	解答なし	2		
8	べん(き)ん	3	(び)んぎん	1	べんぎ○	3	解答なし	4
9	お○さわぎ 解答なし	4 2	おおさ(は)ぎ	13	お(う)さわぎ	1	途中まで書く	1
10	もぐ(う)て	5	もぐ○て	14	も(く)って	1	解答なし	2

問題中、10題全部を書き間違つた児童の指導を要するところ。

問題番号	誤答	数	誤答	数	誤答	数
1	(と)○ぶつえん	1	(と)う(ふ)つえん	1	ど○ぶつえ○	1

2	解答なし	2	でたらめ書き	1		
3	なかいちな	1	解答なし	1	でたらめ書き	1
4	ばん	1	ばん	1	でたらめ書き	1
5	ぶら○○させて	1	解答なし	1	でたらめ書き	1
6	くる○と	2	でたらめ	1		
7	コち	2	解答なし	1		
8	解答なし	3				
9	おおさわき	2	でたらめ書き	1		
10	もぐ○て	1	解答なし	1	でたらめ書き	1

聞いてそのものをつづる学習になれていないため、児童たちのまごつきはおおきかつた。注意散漫な児童はこのテストにたえきれず、途中であきらめているようである。直接日常とり扱われる面を、自分でつかむことが出来たので、今後、児童の多くつまずいている面を取り除くべく指導にあたらねばならぬと思つた。

この第一回のテストの結果女子2名が10点をとつたのであるが、本当にがんばつたと賞賛する。また3名の児童が1題も正答が得られなかつたので残念である。しかし、内容的には問題番号にしたがつて書かれてあるので、もう一段の努力とうかがえる。続いて今度は学級として、つまずきの解決法の一手段として、問題をずつとひきしぼつて取り扱つてみた。その一例を記してみよう。

A の 問 題

問題番号	問　　題	問題番号	問　　題
1	ふえ□ふきました。	6	たま□なげました。
2	わたし□むちゅうで、はしりました。	7	たま□あたりました。
3	5とう□なつてしまいました。	8	すず□ぱつとわれました。
4	ぴすとる□ならしました。	9	どうぶつえん□いきました。
5	ぴずとる□なりました。	10	ぞうのところ□はしつていきました。

「てにをは」の使用法である。大変このごろでは児童たちも関心をはらい、ぶつかつてくるので、結果的にも大変良好になりつゝある。

この問題中、9番と10番の(へ)の取り扱いが意外にも(に)を使用しているのが目立つ。

次に、その成績を一覧にしてみた。

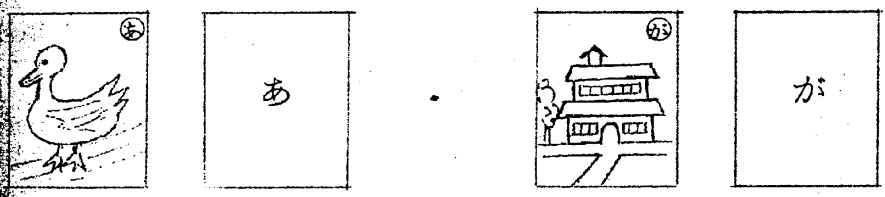
問題番号	問題と正答	誤答	数	誤答	数	誤答	数	誤答	数	解答なし	数
1	ふえを	へ	1	お	1						1
2	わたしは	わ	1								2
3	5とうに	し	1	へ	1						1
4	ぴすとるを	お	1	が	1						2
5	ぴすとるが	を	6	お	2	と	1				2
6	たまを	な	1	へ	1	お	2				2

7	たま(が)	い	1								3
8	すず(が)	は	7	わ	2	を	1				1
9	どうぶつえん(へ)	に	17	え	1	は	1				5
10	そうのところ(へ)	に	15	え	3	の	1				3

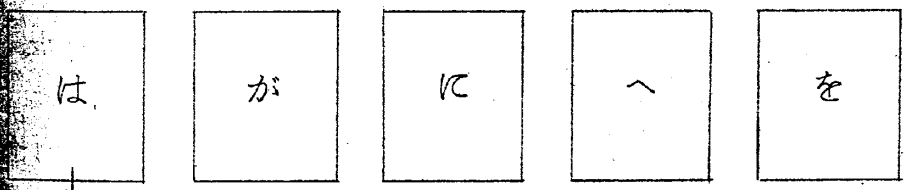
児童たちの会話を聞いていると、この例に(へをにとかく)ひとしいことがある。やはり日常の会話中、不自然と思われる言葉が使用された場合は、その場において気づかせ注意していくことが、やがては、二度と間違いをおこさぬ原因になるのではないだろうか。

この際教具として取り扱われたものに、児童たちはそれぞれ「ひらがな五十音」のカードを持つている。

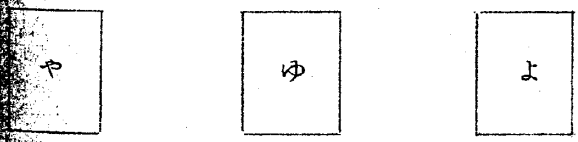
児童の持つているカード。



その他、申し合わせにより児童と共に作成したカード。



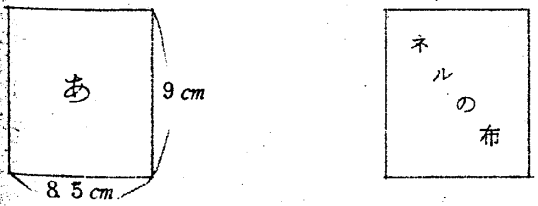
この5枚のカードは、赤字で書いた。



このカードの使用法としては、常に移動性を持たせ、机の上で時に応じて、語彙語句作りに、促音指導に、助詞指導に、濁音指導につかつた。

反面側としては、算数用の方形テンプ板を利用し、方形に合わせて児童と同じカードを作成した。

このカードの裏にネルの布をはり、はりつけやすい状態に仕上げた。



これにはたいへん児童たちも興味を持ち、テンプ板を使用しながら、楽しみのうちに語句に注意したり、また語彙語句の間違いを見つけ出したりするようになつた。これは、常に児童たちがいつでもどこでも使用しやすいようにしておき、遊びながらに進められていた。たいへん効果的であると思つた。

次に、Bのテストを行なつてみた。

B の 問 題

問題番号	問　　題	問題番号	問　　題
	かき方のよいほうに、○をつける。		かき方のよいほうに、○をつける。
1	わたし(わ/は)むちゅうではしりました。	6	おうさわぎ/おおさわぎ　です。
2	口のなか(へ/え)いれました。	7	どうぶつえん/どおぶつえん　へいきました。
	小さくかく字に、○をつける。		漢字に、かなふりをする。
3	ぱつとわれました。	8	口
4	きしや	9	人
5	きんぎよ	10	下

次に、その成績を一覧にしてみた。

問題番号	問題と正答	誤答の数	気づいた点と指導点
1	わたし(は)	11	
2	口のなか(へ)	7	出題中一番良好である。
3	ば(っ)	16	出題方法になれていないため理解できていても表現が適当でない。児童が書き作成したカードによつて、反復練習をする。
4	きし(や)	12	
5	きんぎ(よ)	12	
6	お(お)きなそう	17	反復れんしゆうをする。
7	ど(う)ぶつえん	21	反復れんしゆうをする。
8	くち	11	
9	ひと	28	「しと」とかなふりをする児童が多かつた。また読む場合も「しと」と発音する児童がいる。
10	した	17	「ひた」が多い。

このようなテストを、継続的に何回も何回も行なつているうちに、児童たちもおろそかに書きつづけなくなつたようである。

次に、10月下旬に行なつた第2回目の学年共通テストの結果をも一覧にしてみよう。

第2回　国語学年共通テスト問題

番号	問　　題	番号	問　　題
1	ゆっくりあるく。	6	(小)さなかみ。
2	おかあさん。	7	おうえんしました。
3	えをかきましょう。	8	すぶーんきょうそう。
4	つくえの(下)	9	けんぶつの(人)たち。
5	(大)きなこえ。	10	すずが、ぱっとわれました。

○印は新出漢字である。

年共通テスト中、多く間違つたところ。○印は問題となるところ。

問題番号	誤答	数	誤答	数	誤答	数	誤答	数	誤答	数
1	ゆ○くり	11	ゆ(う)くり	1						
2	おかあ○○	1								
3	え(お)かく	22								
4	(ト)	2	(上)	1	つく(へ)	5	(し)(た)	1	(人)	1
5	大(う)きな	3	・大(う)きな	1	こ(へ)	3				
6	小いさ(い)	12	小さ(い)	1	(ち)(い)さな	1				
7	お(お)えん	9	(大)えん	4	(大)(へ)ん	2	お○えん	1	おう(へ)ん	1
8	すぶ○ん きょ○そう	9 5	す(一)ぶん	2	すぶん(一)	1	す(ひ)ん	1	きょうそ○	2
9	人(と)たち	3	人○○	2	(ひ)(と)	3				
10	は○と	5	(は)れました	8	(は)っと	3	(へ)っと	1	ば(う)と	1

容的にだんだん高度のものを選び行なわせている。出題中、え(を)かきましよう。の(を)が、(お)に書かれている児童が非常に多かつた。

回目の学年共通テストの学級平均よりも、第2回におこなわれた学年共通テストの学級平均のが、良くなつている。

上にあらわれた誤字の実態とその指導

んそく」の作文を、正しく書く字に対しては話し合いをし、その上指導を個別にあたえた。再あやまりを訂正させ、注意するところを意識させた。なお、あまりこの際内容的なものにはふれつた。

2,3児童と話し合いがなされ、再度訂正をする前の文をつづつてみよう。ここに書く文は学以上の児童の作品である。

えんそく　　あつし

(わ)、ばすへのつて、お(う)たのどんりゆうさまへいきました。ぼく(わ)、どうぶつ(お)みました。と、しかと、くじやくと、あと、あひると、さると、きつねと、たぬきと、ことり(お)みました。つのやまで、おべんとうをたべました。ばすにのつて、か(い)りながら、うた(お)、うた○たりしかい(い)りました。あかいとりと、きしやのうたもうたいました。それから、うちへ、いきました。

えんそく　　みよこ

したちは、あしたえんそくなので、わたしは、うれしくてうれしくて、ねむれませんでした。れいさんが、はやく、し(ゆ)(っ)ぱつなので、わたしも、いつしよに、ごはん(お)たべていきました。から、かかつていたので、のりこちやんのおばさんが、ていしやばまで、おくつてくれました。ぬける

うにくるのが、はやすぎました。そして、おへやにはいつて、りんごや、おかし(よ)、わけてんで、ばすがくるの(お)、まつていました。ばすのなかで、うた(お)うた(っ)たりして、おもしろた。どうぶつをみたり、おやまにのぼつて、おべんとうをたべました。おかし(お)たべたり、お(ぬける)をのんだり、おはな(お)つみました。

個人的に誤字をなおさせる事も大切であるが、また全体的に、一斉に同様な材料により行なつてゆくことも、効果のある方法と考えた。児童の作品中、問題のもたれる作品を2,3プリントにいたし児童と共に読み合いながら訂正をしてみた。

次に、そのプリントをかかげてみよう。

○印は、あやまれるところ。

あしかがへいったこと

おかあさんとわたしとあんちゃんと、え(え)が(い)いきました。え(え)がのか(い)りに、せんとう(え)いきました。それから、ぎゅ(う)にゅ(う)(お)のみました。おうちにか(い)ると、はらがいっぱいにな(っ)てしまいました。それから、ふとんを(す)いてね(ぶ)りました。

じてんしゃあのり

ぼくは、じてんしゃでがっこう(え)の(っ)ていきました。じてんしゃで、お(う)ぬま(て)(え)いっていのくんち(い)いって、じてんしゃで、しょうじえん(の)まわっていきました。そしてじてんしゃでさかからおりてきました。うちへかえったらだれもいなかったからたんぼへいってみました。にしやまにいってみました。

おにごっこ

ぼくはおにご(っ)こしました。ぼくがおにになりました。ぼくがあぶともらいました。そしてた(を)にになりました。そしてすぐかく(ね)ばしょにはいりました。

ここで児童たちの作業中にかんじられたことは、たいへんしっかりとその問題の内容が理解され、私のねらつているところに近づいてきたことだ。ここまで間違いを間違いとしてみとめ、直せるようになつたことを、本当にうれしく思う。

次に文中あやまれるところを訂正出来た成績を一覧にし、今後の学習を進める上の参考にしたい。

あやまられている点	正　　答	訂正出来た人数
え(え)が	えいが	25
……(い)いきました	……へいきました	15
……のか(い)りに	……のかえりに	2
……(え)いきました	……へいきました	6
ぎゅ(う)にゅう	ぎゅうにゅう	9
……(お)のみました	……をのみました	10
おうち(に)……	おうちへ……	1
な(っ)て	なって	7
ね(ぶ)りました	ねむりました	13
じてんしゃ(あ)のり	じてんしゃのり	3
がっこう(え)	がっこうへ	11
……の(っ)て	……のって	15
お(う)ぬまた	おおぬまた	19

おおぬまてえいって	おおぬまたへいって	25
いいのくんちいいって	いいのくんちへいって	13
しょうじえんのまわって	しょうじえんをまわって	9
いなかったんだから	いなかっただから	4
おにごっこ	おにごっこ	16
おにごっこを	おにごっこを	7
あぶとを	あぶとを	2
かくねばしょ	かくればしょ	4
をにになりました	おにになりました	7
いって	いって	3

この問題中、あやまつている点を10以上も訂正の出来た児童が、8人もいた。

全体的に — ええが — は — えいが — にたいへん注意され直すことが出来ていた。続いて — おうぬまてえいって — も、25人のものが正しく書きなおしていた。次に — のって — いいのくんちいいって — おにごっこを — ……おのみました — は比較的よく出来ていた。

やはりこの文中、児童の使用している生活語（方言も含む）のあやまりには、あまり注意が向けられず正されていない。

— かくねばしょ — あぶと — しょうじえんの — じてんしゃあのり — まちのかいり — ねぶた — いなかったん

やはりこの生活語（方言を含む）のあやまりを、すこしずつでもよいから正しい方向に指導がなされなければ、作文指導に関するばかりでなく、すべての学習の邪魔になるようである。したがつて、低学年の指導より急激でなくても、正しい生活語を使用できるように、これは教師と地域の者が一体となつて前進すべきであると、強くかんずる。

全体で訂正を加えたあと、学級として参考作品を十点えらび「さくぶんしゅう一ごう」となづけ、発行した。表紙に自由に絵をかかせ、先ず読むことに力をそそぎ進めていつた。又内容から感じられた事や、気のついたことなども話し合つた。作文集に上げられた児童のよろこびの声は、私もうれしくなる程大きかつた。これを機会に、二ごう、三ごうと継続的に発行し、出品も、かならず全児童が一回はかかげられるようにしたいと思つた。

さくぶんしゅう　一ごう

じてんしゃ　　やすお

ぼくは、がっこうからかえると、いつも、だれも、いないので、一人で、じてんしゃにのって、田んぼへいきました。いくと、もう　いねは　ぜんぶ　あつめてありました。おかあさんたちは、やすんでいました。ぼくが、やっといったら、おかあさんが「またきたね」といいました。ぼくの、うちへは、てつだいにきている人がいます。その人は、やさしい人です。その人のなまえは、田ぬまさんといいます。その人が、てつだつてくれるので、たんぼも、もうおわったといいました。おかあさんは、また、はたらきました。

あそんだこと　　まりこ

きょうは、みんなと、あそびました。なわとびをやって、あそびました。わたしと、のりこちゃんが、おかわりで、まちこちゃんと、よしこちゃんが、とぶのです。よしこちゃんが、ひっかかったので、わたしのほうを、よしこちゃんが、おかわりしました。それから、おかめひょっとこをしました。しかくをかいてやりました。そのときは、とっても　うれしかったです。すこしたったら、あいこちゃんがきたので、あそびました。五人であそびました。

あそんだこと　　ひでお

がつこうから　かえって、大だけくんと、べたんをして、あそびました。はじめに二人で、五まいずつだしました。そして、じゃんけんで、ぼくが、さきにやりました。ぼくは、十まい、まけてしまいました。

だいにち　　まさえ

わたしは、おとうさんと、おかあさんと、おとうとと、いもうとと、だいにちへいきました。あめがふってきたので、いそいで、さあかすの、ぞうと、おうまを、みてきました。きくの　はなが、かざってありました。ぼくのしゃべると、ともこのしゃべるをかいました。かえりに、おせんべいを、三十えんかいました。そして、おねいさんの、きじをかいました。えいがかんのそばで、おかあさんが、きじをかつてくるのをまっていました。おせんべいを、たべていたら、おかあさんがきました。ちょっと　まったら、ばすがきたので、のって　かえってきました。

おてつだい　　しげお

ぼくは、せんせいのおてつだいをしました。ぼくと、としおくんで、てすとを、くばりました。そして、うちへ　かえってみたらば、五じに、なっていました。
それから、うちで　さつまいもを、たべました。それから、てれびを　みにいきました。

じてんしやのり　　もとひろ

ぼくは、じてんしやで、がっこうへいきました。じてんしやで、おおぬまたへいって、いいのぐんちへいって、それから　じてんしやで、しょうじえんを、まわってきました。そして、じてんしやで、さかからおりてきました。うちへ　かえってきたら、だれもいなかったので、たんぼへいってみました。にしやまに　いってみました。そしたら、みんなで　おやすみをしていました。ぼくは、じてんしやでいってみました。ぼくは、それから、うしのはなどりをして、くれました。どっかの人がさかなを、とっていました。

あんちゃん　　けんじ

ぼくは、おにわで、あんちゃんと、ぼうるの、なげっこをしました。ぼくは、三かいとれました。あんちゃんが、十かいのうち、五かい、はずしました。こんどは、うらのひろいところで、くにとりをしました。それから、あんちゃんが、木にのぼりました。のぼって、あんちゃんは、木と、はっぱの、ついているのを、おとしました。ぼくは、木と、はっぱのくっついているのを、おとし

。ぼくは、木と、はつぱのくつついているのを、また、どろのなかに、うめました。あんちゃが、木から、おりてきて「そんな木を、うえたつて、すぐかれて、しまうよ。」といいました。ぼは「もうやめた。」といいました。あんちゃんも、やめて、ふろくみをしました。

ま　ま　ご　と　　ゆ　り　こ

まごとをしました。わたしと、おねいさんと、まさえさんとしました。
たしは、はつぱや、はなを　もつて、きました。そして、おねいさんのところへいきました。おいさんが、「ままごとを、もつてくるよ。」といいました。そして、ちょっとやつていたら、のりこ、まもるがきました。のりこと、まもるも、まぜました。そしたら、まもるの、おともだちがたので、まもるは、いつてしまいました。
んな、なかよくやりました。そして、ゆうがたになつたので、わたしとおねいさんで、かたずけた。

お　か　あ　さ　ん　　ま　さ　こ

たしが、がつこうからかえつて「いつてまいりました。」といつたら、おかあさんが、あしかがへれていくといいました。わたしの、おびときのくつを、かいました。それから、おかあさんと、に、のつたのが、うれしかつたです。えいがをみてから、わたしの、ようふくをかつて、うちかえつてきました。うちでようふくを　きてみたら、ちょうどよかつた。わたしは、おびときおかあさんと、いつしょに、まつています。

あ　そ　ん　だ　こ　と　　み　よ　こ

たしは、さちこちやんと、しんちやんと、さつちやんと、あそびました。うちのなかで、さちこちやんの、おじいちやんが、みていました。さちこちやんが、じてんしやにのりました。そしたらんちやんが「もこちやん、おしてくれ。」といいました。
たしは、おもしろくなりました。わたしは、うんとおしてやりました。わたしも　のりました。
、しんちやんには　むりです。だつて、まだ、しんちやんは、がつこうに、あがつていないのです。

むすびにかえて

日も昨日も、児童の顔は明かるい。つい引き込まれて、私の口のほころびることも何回か。元気場の下で明かるく戯むれる児童は、私たちに何物をも忘れさせて、童心に立ちかえらせてくれる。邪気な、そして素直な気持で、ひたすら後についてくる児童をみるにつけ、おろそかな毎日は過ごしたものと自分を反省する。すべて最初の扱いこそ、これからの道を定めるスタートであるので、して指導し、尚、この研究を続けながら、反省を加え進みたいと思う。

講　　評

西中学校　大滝徳海

丸田先生のこの記録は一年生の入学当初から二学期末あたりまで、すなわち、五十音の読みの指導から作文の初期の指導に至るまで、の段階的な指導の丹念な記録であり、たいへん貴重なものであるといえましよう。

先生はまず、基本的な態度として絶えず児童の力について診断を実施しながら、それに対して、しつかりとした対策を立てて段階的に指導を進めていくといういき方をとつています。それは地味でありますが、最も正統的な確実な方法であります。

なお、その診断の場を絵日記・テスト・作文等にとつているのも適当でありましよう。

ところで、これは低学年の指導に限らず、すべての学年に通じて考えることでありますが、殊に低学年の指導においては教師の創意工夫が極めて大切であります。この丸田先生の指導の過程にはその意欲がいたるところに満ちみちているのに注目させられます。

たとえば、「ひらがな五十音カード」の使用にあたつて、助詞を赤色に染めわけたということ、さらに、指導にあたつては算数用の方形テンプ板を利用して効果をあげたということなど、ちよつとしたことのようですが、立派な着意であると言えましよう。

また、作文における誤字・脱字を指導するにあたつて児童の作品をプリントして、児童自身に発見させる方法をとつているのも適当であると思います。けれども、この一斉指導に際しては、さらに一歩を進めて、プリントの各行の頭部に行数（行の番号）を入れておくといつそうよいと思います。そうすると、何行目のどこに誤字脱字があるかということが各児童にたやすくとらえられて、指導が能率的に進められることになるでありましよう。

最後に作文集のことですが、作文指導の整理にあたつて、参考作品を印刷して、「さくぶんしゆう」を作られたことはたいへん結構なことであります。作文学習に児童の興味をひきつける最も大きな方法の一つはやはり文集を作つてやることでありましよう。それによつて作文の仕事の成功の喜びをしゆうぶんに味わわせてやることであります。たとえそれが、どんな粗末なものであつても児童にとつては大きな喜びであるものです。手軽にできる一枚文集でもよいと思います。是非これを今後継続して行かれることを期待するものであります。